

福祉講演会

テーマ：「食べさせたい気持ち」を大切に

～祖母・小倉遊亀の介護の日々と最新の研究～

幼少より祖母である日本画家「小倉遊亀」の身近に育つ。2000年105歳で画伯が逝去されるまでの8年間を在宅介護のキーパーソンとして担い、その実体験をもとに『小倉遊亀 天地の恵みを生きる～百四歳の介護日誌』を執筆されました。この介護体験にも触れながら、高齢者とのコミュニケーションの取り方のヒント、高齢者の食えることに関する国内外の研究成果についてご紹介いただきます。



日 時 2018年2月10日（土）午後1時30分～3時
※開場：午後1時15分

会 場 村岡公民館 ホール【申込不要・入場無料】

◎手話通訳あります。

※お車でのご来館はご遠慮ください。

講 師 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員
森 寛子 氏

【森 寛子 氏 プロフィール】

1984年 暮しの手帖社入社。1992年 小倉遊亀（ゆき）の絵画著作権管理法人「鉄樹（てつじゅ）」の役員に就任と共に、在宅介護の日々が始まる。2000年夏 105歳の小倉遊亀逝去まで介護の日々は8年に及ぶ。介護保険の導入前であったこともあり、よりよい介護を模索し工夫を重ねる日々であった。一度、絵筆を折った祖母が101歳をすぎて再び制作活動をはじめた背景には、画伯本人の精神力はもちろんであるが、規則正しい暮らしに基づいた健康な体と生き生きとした精神活動がその土台にあった。

介護の最初の日から記帳された介護日誌は、逝去の日まで90冊にのぼる。その介護日誌をもとに、『小倉遊亀 天地の恵みを生きる～104歳の介護日誌』（文化出版局）が上梓される。

祖母の死後、鉄樹を離れ、京都大学大学院医学研究科に進学する。集団としての健康を考える疫学を学び、2012年 博士（社会健康医学）を修得した。

2014年より、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所の研究員となる。研究の主な関心は在宅の介護者であり、現在は「口から食えること」に関する調査研究を行っている。

主催 村岡地区社会福祉協議会（ネットワーク部会）

問い合わせ先 村岡公民館 TEL 0466 (23) 0634